

学校で行う国際理解・交流教育支援プログラム

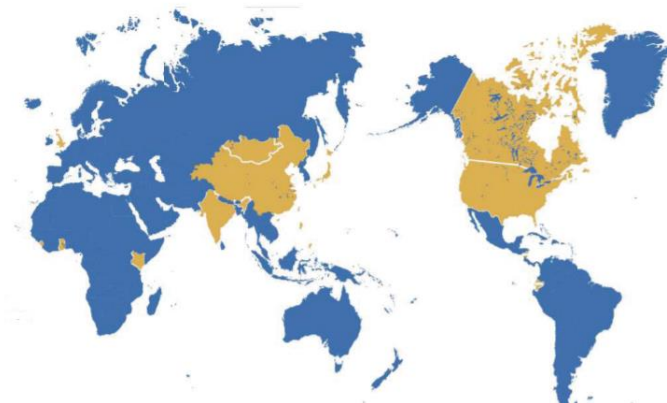
オリンピックパラリンピック教育×
フリー・ザ・チルドレン



「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に
認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン

フリー・ザ・チルドレンとは(1/2)

- カナダの当時12歳の小学校6年生クレイグ・キールバーガーによって1995年に設立された団体です。
- 貧困のため、学校にも行けずに奴隷のように働かされている状況から子どもを助ける児童労働廃絶に向けた活動から事業をスタートしました。
- 並行して子どもは「未来のリーダー」だけでなく「今日のリーダーにもなれる」というメッセージを発信し、子どものリーダーシップ教育(それぞれの個性を活かす)や、学校と連携をして、国内外に向けたボランティア活動の実施サポートに力を入れて事業展開を行っています。
- カナダの12歳の1人の少年から始まった活動は、アメリカ、ヨーロッパ、中南米、アジアへと広がり、今では全世界で230万人の子どもたちが活動に参加しています。
- 国内の社会問題(ゴミ問題、ホームレス、いじめなど)と、国際的な問題を伝える活動を行うと同時に、貧困解消に向け、シエラレオネ、ケニア、タンザニア、ハイチ、エクアドル、ニカラグア、インド、フィリピン、モンゴル、中国を対象に自立支援事業を実施しています。その成果として、現在までに100万人以上も人々がきれいな水にアクセスできるようになり、1000校の学校を建て、毎日20万人の子どもが教育を受けられるようになりました。



フリー・ザ・チルドレンとは (2/2)

- 日本での活動は1999年に発足し、延べ2万人以上の若者(18歳以下の子ども)が活動に参加しました。そして、10冊以上の教科書・教材に活動が掲載され、800校以上で出張授業を実施しました。(2015年現在)
- 様々なプログラムを通じて、日本の子どもたちの「やってみたい」という気持ちを引き出し、社会問題を解決するために「得意なこと×興味のある問題」の考え方を大切に実際に行動を起こすことのできる子どもを育てています。

(参考)

VISION

世界中のすべての人々が誰一人取り残されることなく、心もからだも健康で、自身の夢や希望を実現でき、国籍・宗教・年齢・性別・文化に関係なく、互いを認め合い、互いに勇気づける多様性のある社会。



Mission

上記のビジョンを達成するために、子どもの権利を守り、子どもの可能性を引き出すことが大切だと考えていることから、2つのFreeを目指します。

1. 国内外の貧困や児童労働から子どもをFree(解放)する。
2. 「子どもには世界を変えられない」という考えから、子どもをFree(解放)する。

学校でできる国際教育 — WE SCHOOLS —

WE SCHOOLS とは

子ども若者が、ボランティア活動を当たり前のようにとらえ、「ボランティアはカッコいい」とする考えを広めるムーブメント(WE movement)の学校向け教育プログラムです。国際理解教育の「知る・考える・実行する」という要素を児童・生徒一人ひとりのなかに育て、一過性ではなく、継続的に子ども自身がソーシャルアクションに取り組めるような環境づくりをすすめるものです。

具体的には、

- ・先生向けにアクティブラーニングを使ったカリキュラム、教材キット、キャンペーン案の提供
- ・出張授業による、国際理解と実際にアクションを起こすアイデア・機会の提供
- ・同じ気持ちをもった仲間との繋がりを作り、思いやりのある世界的なコミュニティづくり

このプログラムを通じて地域(ローカル)の社会問題と国際問題(グローバル)について取り組むことで、知識だけでなく、積極的に社会に参加するリーダーシップを身につけることができます。

オリンピック・パラリンピック教育

× WE SCHOOLS

【多様な文化を受け入れ、互いの人権を尊重し、ともに力を合わせる共生社会実現】
WE Schoolsは、オリンピック・パラリンピック教育の上記の目標を共有しているため、これからの取り組みにご活用頂けるプログラムであると考えます。



(参照)オリンピック・パラリンピック教育

「東京のオリンピック・パラリンピック教育を考える有識者会議」最終提言の概要

平成27年12月21日
教育庁

中間まとめ (平成27年8月21日)

1 オリンピック・パラリンピック教育が目指す人間像

- (1) 自らの目標を持って自己を肯定し、自らのベストを目指す意欲と態度を備えた人
- (2) スポーツに親しみ、知・徳・体の調和のとれた人
- (3) 日本人としての自覚と誇りを持ち、自ら学び行動できる国際感覚を備えた人
- (4) 多様性を尊重し、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できる人

教育のレガシー

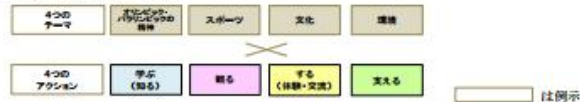
子供たち一人ひとりの心と体に、人生の糧となるかけがえのないレガシーを形成

2 取組に当たっての基本的視点

- (1) **すべての子供**が大会に関わる
- (2) 座学だけでなく、**体験や活動を通じて学び**ことを重視する
- (3) 大会後も見据え、**計画的・継続的に**「オリ・パラ」の教育に取り組む

3 オリンピック・パラリンピック教育の基本的枠組

4つのテーマと4つのアクションを組み合わせた多様な取組を進め、**28年度から全校で展開**



	学ぶ (知る)	関心	する (体験・交流)	支える
オリンピック・パラリンピックの精神	● オリンピック・パラリンピックの精神、歴史、人物等について、学習指導要領を応用し、基礎的な理解を深める ● オリンピック・パラリンピックが国際競争と平和な社会の発展に果たす役割を学ぶ			● 地域のスポーツ大会や障害者スポーツ大会等をボランティアとして支える ● 東京2020の大会にボランティアとして参加
スポーツ	● 国内大会やアジア大会等の機会を活用し、オリンピック・パラリンピックの各種競技を体験・体験		● アスリートや障害者等を学校に招き、オリンピック・パラリンピックの各種競技を体験する	
文化	● 日本の文化、歴史を題材とした番組等の視聴教材を作成・活用し、少人数・習熟度別指導を拡大する等、英語教育を推進			● 在籍の留学生や外国人、大使館、海外の学校との様々な交流活動を推進 ● 被災地の子供たちに対し、東京大会参加用の学校や団体の様々な交流活動を推進 ● 障害者アスリートをはじめ多様な文化プログラムやマインドスポーツイベントに参加・体験する
環境	● オリンピック・パラリンピックの開催と関係の大きな場となった持続可能な社会 (SDG) について学ぶ ● 大会施設の見学等を通じて環境に配慮した大会運営やリニア計画の取組、大会を支える様々な企業活動や資源利用について学ぶ			

中間まとめに加え、教育内容を具体化

● 重点的に育成すべき5つの資質

全校で、4テーマ×4アクションの多彩な取組を行うが、とりわけ**5つの資質の育成**に重点を置く。

(1) ボランティアマインド

発達段階に応じてボランティアに関わる取組を継続的・計画的に行い、社会貢献や他者を思いやる心、「おもてなし」の精神等を育むとともに、子供たちの自尊心を高める。障害のある児童・生徒が社会貢献やボランティアに参加できる仕組みを構築する。

(2) 障害者理解

障害の有無に関わらず、ともに力を合わせ生活できる共生社会を実現するため、障害者理解の学習・体験や障害者との交流を通じ、多様性を尊重し、障害者を理解する心のバリアフリーを子供たちに浸透させる。

(3) スポーツ志向

多様なスポーツへの興味・関心を高め、体験することを通じ、フェアプレーやチームワークの精神を育み、心身ともに健全な人に育てる。

(4) 日本人としての自覚と誇り

日本の伝統や最新の文化を学び、世界に発信する力を育てるとともに、日本人の規範意識や公共の精神等を学ぶことを通じ、日本人としての自覚と誇りを身に付ける。

(5) 豊かな国際感覚

世界の多様な国々の歴史や文化を学ぶとともに、留学生や外国人、海外の学校等との交流を促進し、豊かな国際感覚を養う。

● 学習・教育活動の進め方

(1) 各学校の特色や学校長の経営方針等に基づき、**年間35時間程度を目安**とし、学校全体で組織的・計画的に実施するとともに、一つの教科等に偏ることなく、**全教育活動で展開**

(2) **体験や活動を重視し**、主に以下の**4つの取組**を推進

① 東京ユースボランティア (資質 (1)、(2) を育成)

地域清掃、地域行事・スポーツ大会、地域防災、障害者・高齢者福祉施設等でのボランティア活動等を実施
更に、中学生を対象とする**自主的ボランティア活動を促進するための仕組みを検討**

② スマイルプロジェクト (資質 (1)、(2)、(3) を育成)

障害者スポーツの観戦・体験等の機会を回るとともに、スポーツ等を通じた**特別支援学校と地域の学校との交流を充実**

③ 夢・未来プロジェクト (資質 (1)～(5) を育成)

オリンピック、パラリンピアン、外国人アスリート等との交流を通じ、スポーツの素晴らしさを体感し、国際理解や障害者理解を促進

④ 世界ともたちプロジェクト (資質 (4)、(5) を育成)

多様な国々を学びながら、地域在住の留学生、大使館や海外の姉妹校との交流等、**実際の国際交流活動を実施**

FTCJと4つのテーマと4つアクション

◆国際協力・子どもによる活動で20年の実績

国際協力団体として、45か国で活動をしているため、国際理解・交流のテーマに強みがあります。また、子ども若者を対象としたリーダーシップトレーニング、社会問題への活動サポートの経験から、4つのテーマを横断的に取り扱うことが可能です。

◆4つのアクションを全て網羅

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンのプログラムは、アクティブ・ラーニングで構成されています。学ぶだけ、もしくは体験だけで終わらない、子どもや若者が今後の軸を持てるような学習体験を提供します。

		学ぶ (知る)	観る	する (体験・交流)	支える
	オリンピック・パラリンピックの精神	<ul style="list-style-type: none"> ● オリンピック・パラリンピックの精神、歴史、人物等について、学習読本等を活用し、基礎的な理解を深める ● オリンピック・パラリンピックが国際親善や平和な社会の発展に果たす役割を学ぶ 		<ul style="list-style-type: none"> ● 地域のスポーツ大会や障害者スポーツ大会等をボランティアとして支える ● 東京2020大会に関連したボランティアに参加 	
スポーツ	オリンピック競技	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内大会やテストイベント等の機会を活用し、オリンピック・パラリンピックの各種競技を観戦・応援 		<ul style="list-style-type: none"> ● アスリートや指導者を学校に招き、オリンピック・パラリンピックの競技スポーツを体験する 	
	パラリンピック競技・障害者スポーツ				
文化	日本文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本の文化・歴史を題材とした都独自の英語教材を作成・活用し、少人数・習熟度別指導を工夫するなどの英語教 		<ul style="list-style-type: none"> ● 在京の留学生や外国人、大使館、海外の学校との様々な交流を 	
	国際理解・交流				
		<ul style="list-style-type: none"> ● オリンピック・パラリンピックと環境との関わりや大会を通じた持続可能な社会づくりについて学ぶ ● 大会施設の見学等を通じて環境に配慮した大会運営やバリアフリーへの対応、大会を支える様々な企業活動や最新技術について学ぶ 		<ul style="list-style-type: none"> ● 障害者アートをはじめ多彩な文化プログラムやマイルストーンイベントに参加・体験する 	
環境					

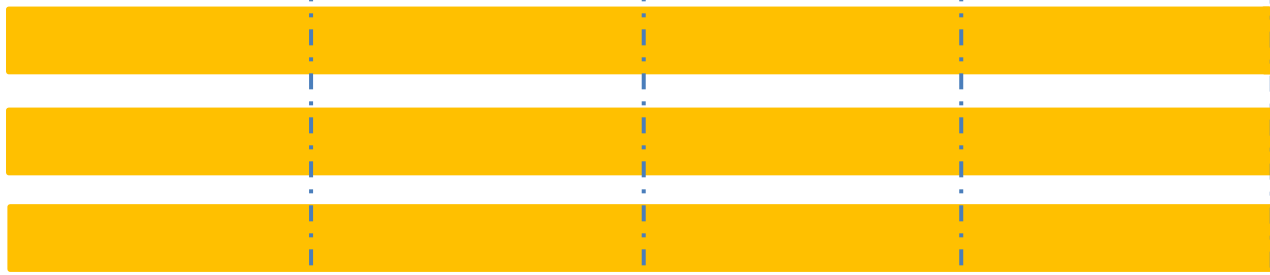
フリー・ザ・チルドレン・ジャパン プログラム 領域

FTCJと5つの資質

- ボランティア
マインド
- 豊かな国際感覚
- 日本人としての
自覚と誇り
- 障害者理解
- スポーツ志向

学ぶ

- 出張授業
- 講演会
- 教材



チームビルディング

チームビルディング

する

- キャンペーン
- 文通プログラム
- イベント



チーム活動

※長期休み中の、「学ぶ・知る・する・支える」を支えるコンテンツ

- キャンプ
- スタディツアー



チームビルディング

チームビルディング

「4x4の取組」

オリンピック・
パラリンピックの精神

スポーツ

文化

環境

×

学ぶ

観る

する

支える

期待できる教育効果

ボランティアマインド

障害者理解

スポーツ志向

日本人としての自覚と誇り

豊かな国際感覚

オリンピック
・パラリンピックの価値

卓越

友情

敬意／尊重

勇気

決断力

平等

鼓舞

国内で800回以上の出張授業実績。

子ども主体の団体として20年以上の実績あるからこそそのノウハウで、「国際理解 × 広い視野と高い志し育成」をサポート

学習の目的を先生と話し合い、100種類以上のワークショップの中から完全カスタマイズで授業プランを作成・実施します。英語での実施も可能。

①社会問題を知ろう（次2ページで詳しくご紹介）

- ・ワールドマップ : 世界の五大陸を視覚的に理解できるアクティビティー
- ・障害者理解、共生社会 : 視覚障害者などマイノリティとの共生社会を考える

②チームビルディング

- ・見ざる・言わざる・触らず : 出来ることが異なる3つのグループが協力し、問題を見極め解決していく
- ・シュータワー : 他人との触れ合いに対する自分の許容範囲を知り、協力して問題を解決する

③アクションプランニング

- ・Gift + Issues = Change : 自分が好きなことと、興味のある問題を組み合わせ、変化（ボランティア活動や啓発活動）を探すアクティビティー



導入事例1：国際理解

- 世界の事を考えてみるということをテーマに、自分たちの捉えている世界と現地のデータを比べ、その差はどこから生まれたのかを考えます。そして、差が生まれた原因や、世界・地域をよりよくしていくために、自分たちはどんな一歩を踏み出せるかを身近なことから考える、という内容にて授業を実施します。

前半セッション：世界地図を作ろう

世界地図を作ろうというワークショップでは、自分たちが世界に対してどのようなイメージを持っているのか考えたのち、実際の世界の現状の分布とその背景説明を知った後に、どんなことを思ったのか、どうして差が出てしまったのかななどをアクションラーニング形式で考えていきます。

世界地図データ(以下から3-5種類選択します)

人口・教育・GDP・消費された食物、エネルギー、燃料、AIDS/HIV、オリンピックメダル獲得数

後半セッション：ボランティアアクションを考える

参加者に身近に感じてもらえるような事例やスピーチを挟み、どんなアクションができるかを考えます

- フリー・ザ・チルドレンは、社会貢献、地域貢献を考えるとときに「楽しくできること・得意なことを活かす」を大切にしており、その考え方をベースに、個々人でできることを一緒に考えていきます。



貧しさが原因で

4.8秒に1人の子供が貧しさのために飢えや防ぐことができる病気などにより亡くなっている。

=毎日1万8千人

これは東日本大震災の死者数と同じ人数です。

食品ロス

=食べられる状態なのに廃棄される食品。

- ・小売店での売れ残り・期限切れ
- ・製造過程で発生する規格外品
- ・飲食店や家庭での食べ残り
- ・季節もの・限定もの
- ・食材の余りなど

日本では食料破棄の1,700万tの内、=500-800万t がまだ食べられる食品
日本の米の生産量：843万t、世界の食糧支援量：470万t

日本の食糧輸入率は=60% (5,500万t)
うち、開発途上国からの輸入率は70%以上！

身近なことから始めてみよう

Gift + Issue = Change

(好きなこと) (関心事) (変化)

生活のこと 社会問題 → **小さなことから始める**

歯ブラシ 水問題 → 歯磨きの時は水を止める
お風呂 水問題 → 流す以外は水を止める
部屋 エネルギー問題 → こまめに電気を消す

無理やり・・・(本当は一人で完結しないものがIssue)

サッカー + 勉強 → 世界で活躍している人・国を調べる
ごはん + 飢餓 → 抜く・一口だけ食べて疑似体験してみる

みんなのGift+Issueは？

世界を変えるために今日からできること

調べる
知る
伝える

導入事例2：人権教育(障害者理解、マイノリティとの共生)

- 障害者理解・人権教育として、1歳3か月の時から全盲のスタッフが出張授業をします。
- 視覚障害者について知り、接し方を学ぼう：
視覚障害者への教育はどうやって行われているのか、日々の生活はどのように送っているのかを、写真や話を通して学びます。また、視覚障害者のサポートはどうするとよいのか(街中で会った時、身近で食事のサポート)を説明後、実際に体験をします。
ワークショップ例：目を隠して給食を食べよう、校内をあるいてみよう(段差や狭い道)、声のかけ方
- 誰もが生きやすい共生社会とは：
障害者や外国人、性的マイノリティなど少数派と言われる人々でも、誰もが暮らしやすい社会とはどういったものかを考えます。
ワークショップ例：共生社会について考えようパズル
- スピーカー：フィリピン障害者支援事業リーダー 石田由香里
1989年生まれ。1歳3か月の時から全盲で、高校まで盲学校に通う。大学生時代にフィリピンへのスタディーツアーをきっかけにフリー・ザ・チルドレン・ジャパンと出会う。イギリスの大学院にて教育開発の修士号取得後、フィリピン駐在のNGO職員として勤務。現在はフィリピン障害者支援事業プロジェクトマネージャー。
著書：〈できること〉のを見つけ方ー全盲女子大生が手に入れた大切なもの (岩波ジュニア新書)



講演会

「4x4の取組」

オリンピック・
パラリンピックの精神

スポーツ

文化

環境

×

学ぶ

観る

する

支える

期待できる教育効果

ボランティアマインド

障害者理解

スポーツ志向

日本人としての自覚と誇り

豊かな国際感覚

オリンピック
・パラリンピックの価値

卓越

友情

敬意／尊重

勇気

決断力

平等

鼓舞

全校集会での「人権／国際理解講演会」にて講師(主に当団体スタッフ)を派遣します。
海外からのゲストスピーカーを招くタイミングには、生の声を実際に聞いて頂く貴重な機会になります。

海外ゲストスピーカー過去実績

社会問題: 12才で国際NGOを設立した少年、コンゴの元子ども兵、フィリピンの虐待被害を経験した少女・元ストリートチルドレン、他
国際理解・異文化理解: エクアドル、モンゴル、アメリカ、カナダ、ケニア、他



教材

「4x4の取組」

オリンピック・
パラリンピックの精神

スポーツ

文化

環境

×

学ぶ

観る

する

支える

期待できる教育効果

ボランティアマインド

障害者理解

スポーツ志向

日本人としての自覚と誇り

豊かな国際感覚

オリンピック
・パラリンピックの価値

卓越

友情

敬意／尊重

勇気

決断力

平等

鼓舞

有料教材

無料教材

写真でのぞいてみよう
-世界で働く子どもの生活-



フォトランゲージともいわれる、様々な写真をもとに参加型のアクティビティで人権教育ができる教材。アジアを中心に、アフリカ、中南米で働く子どもの様子をとらえた写真がセットになっています。

児童労働シミュレーションカードゲーム

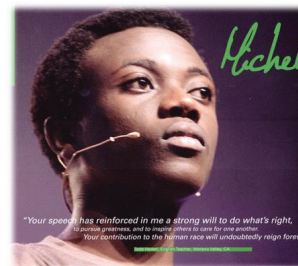


貧困の中、劣悪な環境で暮らし働かなければ生きていけない子どもたちの生活サイクルをカードを通して体験、そのような環境下にいる子どもたちについて理解を深める。

ホームルームなどでも扱える
国際デーから考える社会問題



スピーチから学ぶ社会問題
(例:コンゴ民主共和国・子ども兵)



キャンペーン

「4x4の取組」

オリンピック・
パラリンピックの精神

スポーツ

文化

環境

×

学ぶ

観る

する

支える

期待できる教育効果

ボランティアマインド

障害者理解

スポーツ志向

日本人としての自覚と誇り

豊かな国際感覚

オリンピック
・パラリンピックの価値

卓越

友情

敬意／尊重

勇気

決断力

平等

鼓舞

社会問題を勉強した後の取り組みをサポート
楽しく活動できるキャンペーンをご用意。学ぶだけで終わらず、「支える」の第一歩をサポートします。

書き損じはがき回収

ハガキを集めてできること



120枚(約3,000円)
学用品セットを1つ



200枚(約5,000円)
生活にとっても役立つ
ヤギ1頭

1円玉募金

We create change
～私たちの手でよりよい世界へ～

2500円
＝1人が一生暮らすための水

1円玉募金をしよう
現在、世界では約10億人がきれいな水を
得られずに生活しています。
みなさんからの募金は、フリーザ・
チルドレンが支援している世界中の村に
新鮮できれいな水を届けるために
使われます。

自分の持っている袋
に集めてもいいよ!

参加方法
①事務所に申込む
②create changeの「か」が届く
③か「か」いっぱい募金を集めよう
④貯まったら、FTCに振り込む
振込先はお問い合わせください。

認定NPO法人 フリーザ・チルドレン・ジャパン
〒157-0062 東京都世田谷区南島4-6-5 3F
TEL&FAX 03-6321-8948 * webサイト: <http://www.ftc.jp/>

ハロウィン募金



フェアトレード商品 文化祭販売



文通プログラム

「4x4の取組」

オリンピック・
パラリンピックの精神

スポーツ

文化

環境

×

学ぶ

観る

する

支える

期待できる教育効果

ボランティアマインド

障害者理解

スポーツ志向

日本人としての自覚と誇り

豊かな国際感覚

オリンピック
・パラリンピックの価値

卓越

友情

敬意／尊重

勇気

決断力

平等

鼓舞

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンが支援している子どもと文通をしながら、子どもたちの生活を応援するプログラムです。英語の学習もかねて行う事も出来ますし、日本で書いて頂いても、事務局で翻訳を行いますので、気軽にご参加いただけます。

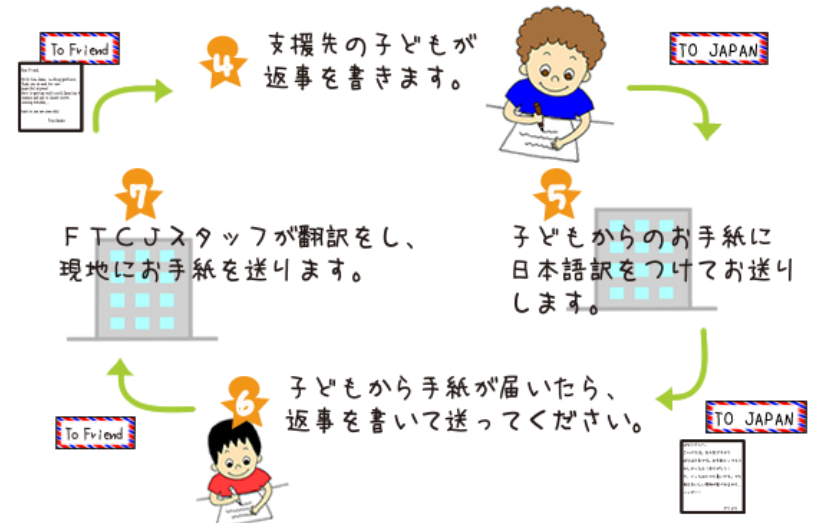
対象国： フィリピン、インド

◆1年間参加◆

費用：12,000円
回数：3往復

◆1回参加◆

費用：5,000円
回数：1往復



【クラスでの活用方法】

- ①クラスで、対象国・子ども達の生活について学習
- ②対象国・子どもへの質問をクラスのみんなで話し合い、1通の手紙にまとめる。
※英語で書く→そのままの文章で現地へ送ります。
※日本語で書く→事務局で翻訳してから現地へ送ります。
- ③(オプション)生徒さん1人1人からの寄せ書きを作り。(翻訳はしません)
- ④(3か月後)現地からお手紙が届きます。

2019年夏開催予定

WE Dayは、社会問題について学び、地域・国外へのアクションを起こした若者が集まり、自分たちの活動を祝福し、これからも社会の一員として活発に活動していく為の決起会です。

現在、カナダ・アメリカ・イギリスの14都市で開催。

2007年の初回より、のべ 65万人の若者がWE Dayに出席、その若者が以下の実績を残しています。

-2,760万時間のボランティア

-地域・世界の社会問題に対し、7.4億円の募金

実際にアクションを起こしている各界の著名人のスピーチ、パフォーマンスを行います。

We realize the importance of our voices
only when we are silenced.”

-Malala,
Pakistani girls' education activist who survived
a Taliban assassination attempt in 2012



団体概要

フリー・ザ・チルドレン代表 クレイグ・キールバーガー

1982年生まれ。カナダ出身。世界最大の子ども主体の国際協力団体Free The Childrenの創設者／責任者。12歳のとき貧困のため権利を奪われ搾取されている児童労働の存在を知り、「同じ子どもの問題なら自分たち子どもで取組もう」と1995年にFTCを創立。以来、50カ国以上の国の子どもたちを訪ね、人道支援や開発の取り組みを行ってきた。

2006年世界の子ども賞、2007年すぐれた社会起業家に送られるスコールアワードを受賞。過去3回、ノーベル平トロント大学で平和紛争学を習得後、ヨーク大学シュールリック・ビジネススクールにてエグゼクティブMBAコースを史上最年少で終了。和賞にノミネートされている。日本においては、2002年に尾崎行雄記念財団から平和に寄与する活動家に与えられる「罌堂賞」を受賞した。

クレイグ著書：『Free the Children』『Take Action! A Guide to Active Citizenship』『Take More Action』『Me to We: Finding Meaning in a Material World』すべて北米でベストセラーになっている。

メディア：Oprah, CNN, 60 Minutes, The Larry King Show, The Hour, The Economist, TIME, People magazine, Toronto Star その他などで取り上げられ紹介されている。



日本組織概要

特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン 英文名称: Free The Children Japan

設立年月日: 1999年1月1日

法人格: 2004年9月21日に東京都より「NPO法人」認証。2012年3月21日に国税庁より「認定NPO法人」認証。

事務局員: 専従スタッフ4名 非専従スタッフ4名 インターン2名 事務局ボランティア5名 翻訳ボランティア30名

所在地: 〒157-0062 東京都世田谷区南烏山6-6-5 3F

TEL: 03-6321-8948 FAX: 03-6323-6504 MAIL: info@ftcj.com

書籍: 『ぼくたちは自由だ』『世界を変える! みんなの力Me to We』『フィリピンの少女ピア』『チャレンジ! キッズスピーチ』

メディア: NHK、フジテレビ「奇跡体験! アンビリバボー」、NHK-BS、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、東京新聞、ヘラルド・トリビューン、Japan Times、Daily Yomiuri、共同通信、AERA、その他雑誌や新聞などで紹介

教科書掲載: 中学英語教科書 ONE WORLD、高校英語教科書UNICORN、EnglishNow、Topics for GlobalCitizenship、中学公民教科書: 清水書院公民、ビジュアル公民、高校家庭科教科書: 家庭基礎、生活学Navi等

出張授業関連事業へは日本財団様よりご助成をいただき実施しております。

